

防コミの歩き方



震災対応シミュレーションゲーム『海辺の町』

長田消防署では市民防災リーダー研修において、南海トラフ地震が発生した際の地域リーダーの役割を理解するとともに、コミュニケーション能力とリーダーシップの向上を図るためのシミュレーションゲームを実施しました。



ゲームは地震発生15分後から自分たちが高台へ避難し始めるまでの時間内に、皆で持ち寄った情報を基に多発する被害への対処方法を見つけ、周囲の住民に渡す指示書を作成する内容です。

ゲーム終了後、「何から手をつければいいのかわからなかった」「時間設定が厳しすぎる」等のご意見をいただきましたが、それこそが震災直後の状況です。

一方で「情報共有や言葉だけで伝える難

しさがわかった」「何でも思い込まず身近な物を使うことがわかった」「今日は来て勉強できて良かった」との嬉しいご感想もいただきました。

『海辺の町』概要

対象 高校生～成人

人数 1グループ5人～7人

制限時間 45分

想定「ここは瀬戸内海に面した海辺の町。とうとう南海トラフ地震が発生しました。皆さんは地域リーダーとして、町で発生している被害に対処するために、周りの住民に適切な指示を出してください。ただし、津波が来るため活動時間は限られています…」

今後は地域のみならず、企業の社員研修や学校のオリエンテーション等でも活用されることを期待しています。高難度の消防職員向けもあります。挑戦してみたい方はご連絡ください。

(長田消防署(現 灘消防署) 樋口貴洋)

